



NO.125

2022年8月1日発行



特集

楽しく働ける組織

巻頭言……介護の魅力 ◆ 及川ゆり

1……楽しく働ける福祉の現場とは ◆ 本名靖

2……組織づくりに大切な三つの理論 ◆ 八須祐一郎

3……循環的構造から考える人材マネジメント ◆ 野田由佳里

4……四つの仕組みづくり ◆ 佐々木炎

5……学び続け、人が育つ組織 ◆ 松川春代

COLUMN……心配しないで！私が責任持つから、やってみようよ！ ◆ 北山加代子

COLUMN……楽しくやりがいのある職場を目指して ◆ 久保田和宏

連載

知っていますか？ 介護予防とフレイル対策——地域り八支援活動とは ◆ 岡持利直



NO.125

2022年8月1日発行

障害者をささえる現場から——いまの私があるのは◆◆**葛西淳乃**……………46

地域で生きるともに生きる——地域共生社会実現の背景とは◆◆**菊地月香**……………48

介護職が知っておきたい医学の知識——脳卒中のケアを再考◆◆**堀田富士子**……………50

にほんではたらく。外国人介護職リレーエッセイ◆◆**晏子怡**……………52

介護とシーティング——シーティングの定義とは◆◆**高木憲司**……………54

課題解決のための事例検討——食事摂取量の低下に対するアプローチ◆◆**特別養護老人ホーム等々力**……………56

活躍する介護福祉士さんに聞きました。◆◆**鹿野真朱美さん**……………62

幸せの国フィンランド便り◆◆**橋本ライヤ**……………64

LIFE 高齢者介護における実践・活用の意義と課題——LIFEとはなにか◆◆**高野龍昭**……………66

F-SOAP 介護記録にイノベーションを◆◆**寫末憲子／小嶋章吾**……………70

読者アンケート……………74

バックナンバー……………75

社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士都道府県別登録者数……………76

C O N T

今

介護福祉士を取り巻く環境は、介護現場における慢性的な介護人材の不足がさらに深刻化し、その状況の中での長期にわたる新型コロナウイルス感染症のまん延、繰り返す株の変異による感染対策の再考など、これまでに経験したことのない対応が求められている。そして、私たち介護福祉士の毎日は、様々な生活上の制限等が継続された状況にある。

この状況によって、超高齢社会の多様な介護福祉のニーズ



介護の魅力

及川ゆりこ・日本介護福祉士会会長

巻頭言

にしっかりと応えることについては、困難と言わざるを得ないが、それでも私たちは、介護の質を落とさないように、目の前の利用者のQOLが少しでも良い方向に向かうよう、検討を繰り返し、日々奮闘つづける。

私たち介護福祉士には、「介護を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適應するため、介護等に関する知識及び技術の向上に努めなければならない」という資質向上の責務

がある。ここにあるように、現在の状況を踏まえ、生活の変化をしっかりと捉えていかなければならない。

日本介護福祉士会は、生涯研修制度を作り、その資質向上に資する検討を繰り返してきた。その内容は、「介護過程の展開」を学習する介護福祉士基本研修と、介護職チームのリーダーを養成する介護福祉士ファーストステップ研修、そして、地域における介護福祉サービスの向上に着眼することやチームリーダーの指導、様々なマネジメント力を持つ人材を養成する認定介護福祉士養成研修などを提供している。

利用者とともに、ADLの改善や生活の中の喜びを感じられる尊い介護の魅力を私は知っている。ただ、専門性を発揮できず、疲労ばかりを感じてしまう仕事になりうることも否定できない。介護福祉士一人一人が、知識、技術を身にまとい、経験値を深めながら、利用者の笑顔を引き出すことと、働く自分たちが、この大きな難題を抱えながら奮闘し、その成果をたたえあい、笑顔の絶えない職場になることを大いに期待してやまない。

及川ゆりこ Oikawa Yuriko

静岡県三島市在住。公益社団法人日本介護福祉士会会長。一般社団法人静岡県介護福祉士会会長。株式会社かいごラボ代表取締役。医療法人にて、病院の介護職員、老人保健施設の介護職員、介護支援専門員、訪問介護事業所所長、デイケアセンター長を務め、社会福祉法人にて、施設ケアマネ、介護長、施設長を経験した。介護福祉士。介護支援専門員。認定介護福祉士。

法人の簡単な紹介

当法人、本庄ひまわり福祉会の簡単な紹介から始めたい。

表1のように、障害者支援施設(知的障害)を主とし、通所で生活介護、地域活動支援センター(本庄市受託事業)、共同生活援助(グループホーム)、相談支援事業等を実施している。当法人は1981(昭和56)年に発足した「本庄市心身障害児・者を守る父母の会」が発端となり、1985(昭和60)年に「本庄ひまわり作業所」を設立したことから事業を発展させてきた。

私が当法人に勤務して4年目となる。長年、大学の教員をしていたが、福祉への出会いは大学を卒業し、最初の職場が「特殊法人心身障害者福祉協会 国立コロニーのぞみ



楽しく働ける 福祉の現場とは

社会福祉法人本庄ひまわり福祉会総合施設長

本名靖 Honna Yasushi

の園」という国が威信をかけて作った知的障害者の施設である。入居者550人、支援員が250人以上、協力会職員が数十名、施設の外周を散歩すると2時間かかるという巨大施設であった。全国から重度の知的障害者がこの施設に集められ、22か寮に分かれて生活していた。このため、知的障害者施設で働くことは、キャリアの最初に戻ったような気分である。しかし、知的障害者支援の内容は随分変わっている。特に、人としての尊厳を守る、虐待防止、意思決定支援等昔の支援とは質が違っている。この背景には、障害者自身の運動と障害者権利条約の批准が大きく影響していると思われる。

地域共生社会 実現の背景とは

vol.1



KIKUCHI RISA
菊地月香 ● 社会福祉法人同愛会理事 長

平

成29年9月、厚生労働省による「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会（以下、地域力強化検討会）」の最終とりまとめが公表された。「我が事・丸ごと」の「地域共生社会」実現に向け、地域住民や各機関、社会福祉法人等の果たすべき役割、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士においては、カリキュラムの見直しが行われた。

少子高齢化や人口減少社会、過疎化に伴う地域格差の問題、核家族や単身、独身世帯、ひとり親家庭など家族形態の変化、非正規雇用や短時間労働、テレワークの推奨など働き方の多様化とWHOによる高齢者の定義の見直し、国民意識の変容による社会保障モデルの転換がその背景にあ

る。

人口格差や生産年齢人口である現役世代の急減が予測される「2040年問題」への懸念により、社会保障モデルにおいても高度経済成長期に確立された「1970年代モデル」から、全世代型の「21世紀日本モデル」への改革が喫緊の課題となった。

医療、介護の地域包括ケアシステムの構築により、サービスネットワークを地域ごとに形成し、生活支援機能を高める「21世紀型のコミュニティの再生」に向けて、社会保障制度改革国民会議が立ち上げられた。平成28年3月、「地域の実情に見合った総合的なサービス提供体制の確立」を目指し、共生型サービスや包括的支援の展開に向け



高齢者や障害児者の介護において、体幹機能や座位保持機能が低下した対象者が、椅子や車椅子に快適に座ることができるよう支援する手法の一つとして、シーティングがある。

適切な介護の一環としてシーティングを取り入れることによって、本人にとって快適な座位姿勢が取れるようになり、日常生活動作が改善し、社会的な活動への参加が拡がり、生活の質（QOL）の向上につながる。ことが期待できると考えられる。

しかし、介護の現場では、「シーティングとは何か分からない」「シーティングをどのように行っていけば良いのか」等と悩むことがあるという意見も聞かれる。また、椅子に座ることができるともかかわらず、車椅子に座らせられている高齢者がいる介護現場等もある。これらは、「高齢者本人にとって快適な座位姿勢と



介 護 と シーティング

第1回

シーティングの定義とは

和洋女子大学家政学部家政福祉学科准教授

Takaki Kenji 高木憲司



はどのようなものか」「高齢者ケアにおける適切なシーティングとはどのようなものか」について、理解が進んでいないことが原因の一つと考えられる。障害児者の車椅子については、医師の処方に基づきリハビリテーション専門職が関わって作製されるものもある一方、高齢者は在宅の場合は介護保険制度による福祉用具として貸与されるが、施設においては備品の車椅子にそのまま座らせられ、適切な座位姿勢となっていないケースも見受けられる。また、障害児者についても、必ずしも適切な座位姿勢となっていないケースもある。さらに、体幹機能障害がある利用者には体幹ベルト等を用いると、「身体拘束」であるとの誤解から、過度なベルト外しにつながっている可能性もある。

このような背景から、株式会社日本総合研究所が実施した、令和2